

東京音楽大学附属民族音楽研究所刊行物リポジトリ

Title	西洋古楽器と日本の伝統楽器との融合－伊福昭作品《因幡万葉の歌五首》他の場合－
Title in another language	Fusion of early Western and Japanese traditional musical instruments - Akira Ifukube's <i>Five Poems after "Inaba Manyo" and others -</i>
Author(s)	坂崎則子(SAKAZAKI Noriko)、小川美香子(OGAWA Mikako)、三好美穂(MIYOSHI Miho)
Citation	伝統と創造=Dento to Sozo, Vol. 11, p. 55-63
Date of issue	2022-03-29
ISSN & ISSN-L	Print edition: ISSN 2189-2350, Online edition: ISSN 2189-2482, ISSN-L 2189-2350
URL	https://tcm-minken.jp/publication/IE_B11202106.pdf

西洋古楽器と日本の伝統楽器との融合
 —伊福部昭作品《因幡万葉の歌五首》他の場合—

Fusion of early Western and Japanese traditional musical instruments
 - Akira Ifukube's *Five Poems after "Inaba Manyo"* and others -

坂崎則子 SAKAZAKI Noriko*
 小川美香子 OGAWA Mikako**
 三好美穂 MIYOSHI Miho***

古楽器と日本の伝統楽器のコラボレーションによる演奏会が2021年9月に開催された。この演奏会はアンサンブル・ラ・ガラシアを主宰する小川美香子氏が企画立案したものであった。このグループは、中世の楽曲から委嘱作品の現代曲まで、幅広い年代と地域の楽曲を撥弦楽器、打弦楽器を中心に構成されたアンサンブルで、独自の世界を創造している。この演奏会の内容は、東京都文化局のオリンピック記念「Tokyo culture live studio」で全世界に配信されたものである。今回はソプラノ、アルトフルート、二十五絃箏のために書かれた伊福部昭作曲《因幡万葉の歌五首》を西洋古楽器でアレンジした。この報告はそこで使用された珍しい貴重な楽器群を紹介するものである。

キーワード：因幡万葉の歌五首 Five Poems after "Inaba Manyo",
 伊福部昭 IFUKUBE Akira, 撥弦楽器 plucked string instruments,
 打弦楽器 struck string instruments, 二十五絃箏 25-stringed koto

1. 西洋古楽器と日本の伝統楽器との融合をはかる演奏会について 坂崎則子

人々の生活を一変させたコロナ禍の状況下において、2020東京オリンピックが粛々と開催された2021年。様々な縁が寄り添って集まり、古楽器と日本の伝統楽器のコラボレーションによる演奏会が2021年9月に開催されました。この演奏会はラ・ガラシアを主宰する小川美香子氏が企画立案し、本学民族音楽研究所主催の社会人講座受講生の三好美穂氏と共同で相談の上になされたものです。そこで演奏される楽器群は、極めて貴重で珍しいものであり、他では聞けないアンサンブルでありましたので、その経緯とともに、ここにご紹介します。さらに、今回の楽器の中にはピアノの源流となるものも多いので、音大生にも広く知ってほしいと強く思っています。こうした、時空を超えて響き出す音楽は、今だからこそ、この閉塞した空気の中で希望の光となるものです。



写真1 悠久の祈りフライヤー

「悠久の祈り」

～いにしえの人々の想いが現代に甦る～委嘱作品とともに贈る

2021年9月17日（金）近江楽堂

ソプラノ (Sop.) 鈴木美登里 / 中世フルート (Fl.) 前田りり子
箏 (17k)、二十五絃箏 (25k) 渡邊香澄 / プサルテリー (Ps.) 三好美穂
久乗編鐘「銀河」(Jc.)、中世ダルシマー (Md.)、ハックブレット (Hb.)、打楽器 (Per.)
弥生の琴 (Yk.) 小川美香子

2. 「悠久の祈り」演奏会報告 三好美穂

その始まりの縁

西洋の古楽器と、日本の伝統楽器が融合した上述の演奏会が9月に催されました。この演奏会は2020年コロナ禍において芸術家支援の為の一つのプロジェクト「アートにエールを！」をきっかけとしています。私達は「悠久の祈り」と題してハックブレット・中世ダルシマー・プサルテリーによる演奏動画を公開しました。この動画が評価され、東京五輪・パラリンピックの文化プログラム「Tokyo Tokyo FESTIVAL」への出演が決まり、また特別記念公演も決定しました。プログラムは中世ヨーロッパの楽曲などの他に、伊福部昭作曲《因幡万葉の歌五首》より3曲を選択いたしました。しかし、この楽譜は発売されておられません。そこで伊福部氏ご家族の方より許可をいただき楽譜を入手いたしました。演奏するにあたり、この作品を因幡宇治神社にて奉納演奏されている甲田潤先生に相談したところ、演奏会の編成については「笛を入れるべき」との助言をいただきました。そこから古楽器と日本の伝統楽器との融合が始まっていきました。

西洋の楽器と、日本の楽器の融合 ～とても珍しい楽器群～

中世フルート (Medieval Flute)

《因幡万葉の歌五首》はアルトフルートと二十五絃箏、歌の編成ですが、私たちは古楽演奏のグループですので、古楽器のフルートで演奏することを思い立ち、バロック・フルートの専門家である前田りり子さんをお願いしました。前田さんは中世フルート、ルネサンス・フルートも演奏されます。この中世の木の感触そのままのフルートの音色は時空を超えて、また、日本と西洋の遠い距離も超え溶け合って美しい響きが近江楽堂を包み込みました。中世フルートという楽器を日本で演奏されている方は殆どおられません。今回アルトフルートで書かれた曲を演奏するにあたっては難しいことがありました。

「使ったのは中世フルートのD管とC管、ルネサンス・バスのG管の3本です。苦労したのはオリジナル楽曲が、半音階が吹けるアルトフルートのための曲だと言うことです。一般的な中世フルートはバロック・フルートなどと同じで最低音がDなので、それより低い「ドシラソ」

を吹くことができません。そのためその音を吹くところだけモダンのアルトフルートと同じく最低音がGのルネサンス・バスフルートを使用しました。全てバスフルートで吹くことも考えましたが、高音の方の音が足りず無理でした。また、中世フルートは教会旋法に合わせて幹音と多少の派生音しか吹けません。特に低音のEsがしっかり吹けないので必要な時は全音ピッチが低いC管を使用しました。中世の笛は日本の笛と同じく指穴を直接押さえるので、日本の笛の奏法にあるような、指によるグリッサンドをつけることができたのはよかったところです。」(前田りり子氏談)

1曲の中で、音域により笛を交換して演奏した



写真2 中世フルートC管上 D管下

青谷上寺地遺跡出土の「弥生の琴」

《因幡万葉の歌五首》曲の冒頭には、青谷上寺地遺跡から出土した弥生の琴を復元した楽器も鳴らしました。その簡素なつつましい琴の音色は、どこか神に語りかけるようでもあり、遠い昔にそうして使われていたのかもしれないと思わせるものでした。鳥取市青谷上寺地遺跡展示館より設計図を取り寄せ復元楽器を製作しました。この弥生の琴に関しては、指でつま弾くだけでなく、バチで叩いたのではないかという説もあります。日本の箏の歴史をひも解けば、それは大陸と繋がっており、中世古楽器として演奏されるブサルテリー、ダルシマーに繋がっていきます。



写真3 弥生の琴

久乗編鐘「銀河」

富山県高岡市は鋳物産業を主とする、職人の街です。この街の鋳物産業は、前田利長公が高岡に築城したことに始まります。ここで製作されてきた「おりん」に音階が付いた楽器が生まれました。元をたどれば、古代中国の鐘の文化があり、紀元前5世紀の墓から65の鐘が組み合わせられた編鐘が出土している古い歴史をもつ音具です。この久乗編鐘「銀河」は本体サイズ：幅1,380×奥行560×高さ1,750mm銅合金（結晶）できています。数年前から「西洋の鐘」に代わる日本のものを探していた小川美香子氏がこれより小型のサイズの「編鐘」を使用していたのですが、この度オリンピックの為に久乗編鐘「銀河」を特別にお借りしました。この編鐘を、伊福部昭作曲《因幡万葉の歌五首》、ヒルデガルド・フォン・ビンゲン作曲《おお、

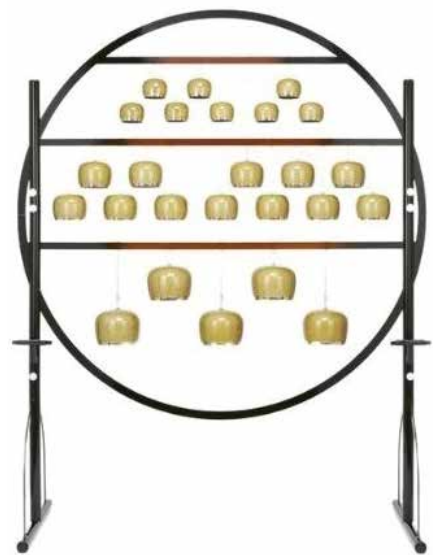


写真4 久乗編鐘「銀河」

神秘なる教会よ》、ジョン・ケージ作曲《カリヨンのための音楽》での演奏に使用しました。カリヨンは西洋の鐘ですが、久乗編鐘でこの曲を演奏しました。原曲とはまた違った日本的な味わいのある鐘の音が、混じりあい重なりあっていくのですが、不協和な音楽にならないのが不思議です。

二十五絃箏

二十五絃箏は弦の数が25本ある箏です。一般的な箏の弦は13本で古典の音楽には適し完璧な楽器であったそうですが、西洋音楽と互角に演奏するために箏の音域を広げることを試みられ、野坂恵子氏によって二十絃箏が1969年に開発・発表されました。その後、伊福部昭作曲《ギターのためのトッカータ》、また《日本組曲》を弾くために弦をさらに次々と増やして、1991年に二十五絃箏は発表されました。



写真5 二十五絃箏

ボツメー (Bomme)

トナカイの皮と角を使用して製作されたノルウェーの打楽器です。この度、ノルウェー出身の知人による特別なルートをもって購入できました。ヴァイキングの音楽などで使用されるパチで叩くタイプの太鼓です。このボツメーを使用して、伊福部昭作曲《北の海に死ぬ鳥の歌》を演奏しました。アイヌの叙事詩から想像できる北の海、そして北欧のどこか冷たい海を通じて、心に響くものがありました。



写真6 ボツメー Bomme

プサルテリーとダルシマー、ハックブレット ～弦をたたく、弦をはじく～

私たちは、弦の張られた共鳴箱の楽器であるプサルテリー、ダルシマーを研究して演奏活動を行っています。これらの楽器の歴史は古く、教会の絵画や石造建築などに見ることができますが、残念ながら、実在するものはありません。13世紀頃のものと思われる《聖母マリアの頌歌集》の中には、たくさんの細密画が残されており、そこに見られる楽器類は貴重な資料です。形は台形、四角形など様々であり、天使が奏するような構図で描かれることが多い楽器です。パチを持って叩くとダルシマーになり、鳥の羽軸や指ではじくものがプサルテリーと分類されていきます。

プサルテリー (撥弦楽器 Psaltery)

私はドイツ・フランクフルトのシュテーデル美術研究所にある「楽園の小さな庭」(Paradiesgärtlein、1410-1420年頃に描かれたもの)という絵画に描かれたプサルテリーを復元製作し、演奏に使用しています。この楽器は、スペインの古楽アンサンブルグループのパニアグア



写真7 楽園の庭
"Paradiesgaertlein", 1410-1420

(Paniagua)氏が製作し演奏されているものと偶然にもほとんど同じ形です。小さな楽器ですが3オクターブ半(ダイアトニック)の音域を持ち、大変よく響き美しい音が出ます。プサルテリーは製作者によって音域も音色も違います。

ダルシマー (打弦楽器 Dulcimer)

木製の箱の上に張られた金属の弦をバチで打って演奏する楽器のことを打弦楽器(ダルシマー)と言います。ラテン語では「ドルチェ・メレ」と言っており、甘い響きという意味があります。この楽器はドイツではハックブレット、英語圏ではハンマー・ダルシマーと呼ばれ、同じ種類としてはイタリアのサルテリオ、ハンガリーのツィンバロムや中国の揚琴、イラン・インドのサントゥールなどがあります。

中世ダルシマー (Medieval Dulcimer)

中世の楽曲には中世ダルシマーを演奏に用いました。この楽器はC(ド)より1オクターブ半(ダイアトニック)の音域の楽器です。この楽器にはBb(シのフラット)があり、色々な曲を演奏することができます。



写真8 プサルテリー 左 中世ダルシマー 右

ハックブレット (Hackbrett)

現代曲などにはハックブレットを使用しました。2オクターブ半の音域を持ち、全ての音階の演奏が可能な楽器です。

《因幡万葉の歌五首》の《Ⅲ はるのその》は楽器演奏にアレンジし、メロディ部分に使用しました。箏と西洋の琴の仲間であるハックブレットは神秘的に響き、近江楽堂の豊かな音響の箱の中でそれは倍増され美しいハーモニーを生みだしました。



写真9 ハックブレット Hackbrett

3. 楽器との出会い 小川美香子

知られざるダルシマーの世界

私は大学で打楽器やマリンバを学び、常日頃からジプシー音楽に興味を持っておりました。ある時、フィレンツェのウフィツィ美術館前でツィンバロムのバンドの生演奏を聴く機会がありました。そこで、紡ぎ出される音の迫力に圧倒されたのを覚えております。

数年後、TVやラジオ録音の仕事で揚琴という楽器を弾く機会がありました。その後、東欧諸国の



写真10 バロック・サルテリオ

ツインバロム、中国の揚琴、英語圏のハンマー・ダルシマー、イタリアのサルテリオ、そしてドイツのハックブレットと、弦を木製のバチで叩いて音を出すという楽器の音色に徐々に惹かれていきました。調べて行くうちに、木の箱に弦を数本張っただけの素朴なものから金箔が貼られ見事な装飾が施された楽器など、古代から中世を経て現代まで様々な形の打弦楽器があることがわかりました。

日本でも弥生時代の遺跡から、打弦式と思われる琴が発掘されております。古の世から人々が歩む時の中で奏でられていた音色は、言葉では言い表すことができないくらい魅力的なものです。

4. まとめ(総括) 坂崎則子

ピアノやチェンバロなどの鍵盤楽器の歴史を探っていくと、中世のプサルテリーという楽器に行きつきます。この楽器は日本語で、プサルテリー、プサルタリー、プサルテリウムと様々な呼ばれ方をしている形状も様々で、三角の箱の弓で奏するものを想像される方もおられます。

ラテン語 / プサルテリウム (psalterium)、ギリシャ語 / プサルテリオン (psalterion)、ドイツ語 / プサルタ (Psalter)、英語 / プサルタリー (psaltery)、フランス語 / プサルテリオン (psaltérion)

「プサルテリウムは爪弾いたり、プレクトラムで弾いたりするのが常であるが、やがて色々な形の撥で叩いて演奏する形のもものが現れ、ダルシマーの名前で呼ばれるようになった。さらに撥がハンマーとなり、それを鍵盤で操作するようになってクラヴィコードが出現し、最終的にはピアノへと発展した。(金澤正剛『古楽のすすめ』 p.121)」

ピアノの歴史という本の中では、プサルテリーの項目は必須ですが、詳しくこの楽器について日本語で説明されているものは僅かでした。最近出版された本では、プサルテリー、ダルシマーの項目に関する記述が増えました。参考(青山一郎『1冊でわかるピアノのすべて、調律師が教える歴史と音とメカニズム』 p.13-16.)

古楽が日本でさかんになり広がるにつれて、ピアノ以前の楽器、フォルテピアノ、チェンバロなど古い楽器に関する関心も深まっていくように感じられます。

この西洋の古楽器たちが、実は歴史上、また分類上、日本の箏に繋がっていることは、ご存じない方が多いかもしれません。ホルンボステル(1877-1935)とザックス(1881-1959)による楽器の分類では、単純弦鳴楽器とし



写真11 富山新聞記事

て「ツイッター、モノコルド、ハックブレット、エオリアンハーブ、琴、箏、和琴、二弦琴、洋琴、」となっております。（黒沢隆朝『図解 世界楽器大辞典』p.276）

この箏の一つである二十五絃箏は日本の伝統楽器であります。意外にも歴史は浅い楽器です。西洋音楽の普及していく時代の変化の中で生まれていった楽器です。伊福部昭作曲の作品を演奏するために生まれた二十五絃箏と西洋古楽器とで、東京オリンピックの年に《因幡万葉の歌五首》が演奏され全世界に配信されることになりました。この演奏配信は様々なところで反響を呼びました。高岡市では、「おりん」によるオリンピック記念演奏ということで富山新聞、北陸中日新聞、および毎日新聞に取り上げられました。

世の中には、様々な地域の楽器があり、音色も演奏方法も様々ですが、伝統的な使い方がかりでなく地域や時代を超越し融合されていく演奏もどんどん広がっていくことでしょう。

より一層の、新しいアイデアに、これからも期待したいところです。

【使用楽器一覧】

中世フルート	Medieval Flute	ジョヴァンニ・タルディーノ（バーゼル）
弥生の琴	Yayoi Koto	鳥取市青谷上寺地遺跡出土 牧田啓佑（復元製作）
久乗編鐘「銀河」	Japanese Bell	株式会社 山口久乗
二十五絃箏	25-Stringed Koto	非公開
十七絃箏	17-Stringed Koto	非公開
ボッケー	Bomme	ノルウェー製
ハックブレット	Hackbrett	クレメンス・クライチュ
中世ダルシマー	Medieval Dulcimer	不明
プサルテリー	Psaltery	牧田啓佑（復元製作）

【参考文献】

青山， 一郎．

2021 一冊でわかるピアノのすべて、調律師が教える歴史と音とメカニズム．アルテスパブリッシング．

小川， 貴久子．

2009 カラー図解、ピアノの歴史．河出書房新社．

笠原， 潔．

2004 埋もれた楽器、音楽考古学の現場から．春秋社．

金澤， 正剛．

2010 新版、古楽のすすめ．音楽之友社．

黒沢， 隆朝．

2005 図解、世界楽器大辞典．雄山閣．

郡司， すみ．

1994 琴 = Zither. 国立音楽大学楽器学資料館．

マンロウ， デイヴィッド． 柿木， 吾郎．

1979 中世・ルネサンスの楽器．音楽之友社．

レア, アンドレ.

1994 世界カリヨン紀行. 新潮社.

【写真・資料提供】

鳥取市青谷上寺地遺跡展示館 〒689-0501 鳥取県鳥取市青谷町青谷 4064
株式会社 山口久乗 〒933-0941 富山県高岡市内免 2 丁目 8 番 50 号

プログラム 2021 年 9 月 17 日 近江楽堂 (東京オペラシティ)

「悠久の祈り」～いにしえの人々の想いが現代に甦る～委嘱作品とともに贈る

- 《セイキロスの墓碑銘》 作者不詳 (Fl.) (Md.) (Ps.) (Jc.)
《祈りをささげた男の話 No.119》 聖マリアの頌歌集 (Fl.) (Md.) (Ps.) (Jc.)
《希望を見出した騎士の話 No.281》 聖マリアの頌歌集 (Fl.) (Md.) (Ps.)
《VIGO(ヴィーゴ)》 小川類 (Sop.) (Fl.) (25k) (Hb.) (Ps.) (Jc.)
《海の声を聞け》 ラス・ウエルガス写本 (Sop.) (Fl.) (Ps.) (Jc.)
《鳥のように》 沢井忠夫 (17k)
《カリヨンのための音楽》 ジョン・ケージ (Jc.)
《おお、神秘なる教会よ》 ヒルデガルト・フォン・ビンゲン (Sop.) (Fl.) (Md.) (Ps.) (Jc.)
《因幡万葉の歌五首》より 歌：万葉集より / 作曲：伊福部昭
I あたしき [新しき 年の始の初春の 今日降る雪のいや重け吉事]
大伴家持 万葉集全巻の最後
III はるのその [春の苑 紅にほふ桃の花 下照る道に 出で立つ娘子]
大伴家持 万葉集巻 19
V わがせこが [わがせこが 面影山のさかあまに 我のみ恋ひて 見ぬはねたしも]
大伴坂上郎女 古今和歌六帖巻 4

アイヌの叙事詩に依る対話対牧歌 第 3 曲

《阿姑子と山姥の踊り歌》 詩:作者不詳/作曲:伊福部昭 (Sop.) (Fl.) (25k) (Ps.) (Per.)
～アンコール～

アイヌの叙事詩に依る対話対牧歌 第 2 曲

《北の海に死ぬ鳥の歌》 詩:作者不詳/作曲:伊福部昭 (Sop.) (Fl.) (25k) (Ps.) (Per.)

Program of Eternal prayer: Beyond time Sep 17, 2021.

- 《The Seikilos Epitaph》 author unknown
《Como somos do demo perdudos No.119》 Cantigas de Santa Maria
《U alguen a Jesucristo No.281》 Cantigas de Santa Maria
《VIGO》 Rui Ogawa
《Audi Pontus》 Las Huelgas codex
《Like a Bird》 Tadao Sawai
《Music for Carillon》 John Cage

《O Orzchis Ecclesia》

Five Poems after "Inaba Manyo"

《No.1 Aratashiki》

《No.3 Haruno sono》

《No.5 wagaseko ga》

Hildegard von Bingen

Man'you syu / Akira Ifukube

Eclogues after Epos Among Ainu Races: No.3

《ku taxkara kusu》(Dancing song of a young girl and a witch)

Traditional poem / Akira Ifukube

※ Encore

Eclogues after Epos Among Ainu Races: No.2

《Yaishama ne na》(Song of a bird dying in the Northern Sea)

Traditional poem / Akira Ifukube

A concert was held in September 2021 in collaboration with early Western and Japanese traditional musical instruments. This concert was planned by Ms. Mikako Ogawa presiding over "La Galassia" group. The group creates a unique view of music with an ensemble composed mainly of plucked string instruments and struck string instruments, with works of a wide range of ages and regions, from medieval works to commissioned modern works. This performance was distributed worldwide at the Olympic Memorial website "Tokyo culture live studio" of Tokyo Metropolitan Government Bureau of Citizens and Cultural Affairs. This time, the author Mikako Ogawa arranged the *five poems after "Inaba Man'yo" for Soprano, Alto-Flute and 25-Stringed Koto* composed by Akira Ifukube using early Western musical instruments. This report introduces the rare and valuable musical instruments used there.

* (本学教授、音楽学)

** (打弦楽器奏者)

*** (撥弦楽器奏者)

